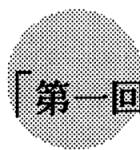


発行日 1998年12月7日 編集・発行人 白石高啓 編集長 大西泰弘  
 発行所 都市環境デザイン会議 四国ブロック JUDInews編集事務局  
 〒760-0050 高松市亀井町8-12 MO環境設計内  
 電話 087-831-8662  
 FAX 087-831-8663



## 四国風土再発見\*環境デザイン紀行 「第一回街並みの魅力 宇和・大洲文化を支える人々」 が開催されました

10月31日（土）～11月1日（日）、愛媛県東宇和郡宇和町にて見学交流会「四国風土再発見\*環境デザイン紀行／まち並みの魅力\*宇和大洲文化を支える人々」が開催され、約40名の参加がありました。

31日は、伝統的建造物群保存対策調査および修復事業が整い始めた中町通りなどを見学し、「中町を守る会」の方々との交流会の後懇親会がおこなわれました。

翌日は、大洲市のまちづくりを進める方々の案内で、大洲の歴史を色濃く残す肱

南地区の見学交流会を開催しました。



▲卯之町の街並み

## 宇和・大洲・内子の文化に触れて

高知大学農学部 景観デザイン研究室 山崎堯右

今回も『ゆにて設計事務所』の白石さん大変なお骨折りを頂き、さる10月31日11月1日に、四国の風土再発見\*環境デザイン紀行の企画の一環として宇和・大洲さらに足を伸ばしての町並み保存に触れる旅をしてまいりました。

参加者は徳島5名、香川6名、高知は3名、愛媛13名それに応対していただいた宇和町の学芸員や中町を守る会の大気会長他会員や町の役員の方々、大洲市職員の方々のご厚誼を賜り、大変有意義な旅となりました。なかでも、3市の街並み保存に貢献されておられる方々の日頃の並々ならぬ努力の一端にふれて、大変感動し、つくづく文化のありようを考えさせられる旅でした。お世話くださった関係各位にあらためて感謝申し上げます。

私は平成に至る戦中、戦後の昭和という時代は大嫌いであります。戦後の昭和に時

代を象徴し、主張できるデザインがあったでしょうか。

デザインのない時代、あってもどこかちぐはぐなってつけた文化的文化でしかなかった時代、火葬てしまい、あとに昭和という時代が残らないデザイン不毛の時代、それが戦後の昭和でなかったでしょうか。

いみじくもバウハウス機能主義デザインの旗手としてさっそうと登場した戦後のデザイン潮流があったにもかかわらずであります。

現在の世界中どこにでも見られる町並み、ガソリンスタンド、コンクリートビル、車の往きかう道路や橋梁、こんなに時代を写さないアイデンティティのない都市空間を誰が期待したでありますか。一つ一つの建築は丹念にデザインされても、渾然と乱立する個々の衝突は広告同志の衝突する騒色と大差がないのではないでしょうか。

明治、大正はヨーロッパの模倣ではありました。確かに様式があり、人々はその文化に浸ったのであります。昭和の初期にも確かに様式文化がありました。時代を投影する文化が認識できます。多くの戦後のものは実に寒々とした無国籍で、出来損ないの時代背景しかないと感じずにはおられません。一つには無駄な装飾を嫌ったバウハウスの一面の主張が過度に流布した功罪があったからかも知れませんし、盲目的にそれを信奉したつけが今に至ったかもしれません。戦後の見せ掛け文化住宅的町並みが荒廃して、朽ち果てようとしている現今、そんなものは町並みとして残す哀惜は正直小生にはありませんし、ポストモダーンといいながら行き過ぎてしまった今日的人工派と環境派の2分極化の現状においてもです。

しかし、あの宇和の博物館内に再現された戦後までの町家の一角はすっかりタイムスリップしてしまいました。ヴァーチャルリアリティの体験から、あらためて過ぎ去ったあの頃にひたることができ、贅沢な異空間ではありました。宇和の町並み、大洲の町並み、内子それは決して、戦後の歴史ではあっても戦後のみにつくられた様式ではありません。歴史的に積み上げた文化の象徴であります。そこに生きた人達の息きづかいや生活体験があって、はじめて本当の文化遺産の伝承がありましょう。単に外から見ただけの外観保全ならば、蒲田の映画セットと大差ないですし、3Dアニメーションをモニターで観察するのと、同程度の質でしかありません。

こう均質化してしまった不毛の世界の現

状で、イスラム世界は頑として、文化のアイデンティティを崩していないのに対比して、すぐ媚びてしまった日本文化の反省点が浮きぼりになるようにみえるのです。均質化に向けた地域おこしは、表面的のみでなく、人のよって立つ文化の基盤を喪失させ、遺跡の残らないまるで人骨がでない火葬時代の現代を象徴した所業となるでしょう。

そこに住み、生業を体験してこそ、保存文化の今日的意義があります。そこに再発見できる良さを発見できてこそ、永続的保護が可能となり、人づくりとしての古い住宅環境の価値が生まれます。そうゆう保存を願って、旅の感想とさして頂きます。

内子に一軒の喫茶店があり、ドアを開けてもらいたい側の反対側の店先に、そっと水の入った一鉢に切花と柄杓を添えてありました（こちらから入っては駄目とするのではなく、自然に風情をもって反対側から入るように配慮）。また、白石さんの若かりし日の作品に触れる機会を得、木とたづまいの一体化、この二つの事例に本当のデザインの心を見た思いがします。関係の皆様に重ねて、厚くお礼申し上げます。申し上げたいこと沢山ありますが、益々醸い自分が出ますので、ここで筆をおきます。



▲見学会では中町を守る会会員に説明をいただいた

## 四国の風土再発見は野性への希求か

JUDI四国ブロック幹事 白石 高啓

四国風土再発見・環境デザイン紀行第一回街並みの魅力は『宇和文化の里 中町を守る会』・『大洲市肱南地区まちづくり推進班』の人々と都市環境デザイン会議四国ブロック会員・地元建築士を交えての交流会（10/31～11/1）を開き意義深い情報交換

が出来た。中町通りは調査レポートも文化庁に提出され伝統的建造物群保存地区にやがて選定されるであろうと大いに期待されている。今後の町並みへの取り組みとして、全国で49地区（31道府県）選定された中の肱町南町（徳島）・丸亀市塩飽本

島町笠島（香川）の事例発表があり、それぞれの問題点が語られた。折角、町並み整備をしても過疎化、高齢化によって再生が危ぶまれること。場所性や歴史の読みの甘さからくるちぐはぐな町並み、画一化されたデザインモチーフの乱立と、計測しがたい感覚の価値判断の難しさなどが印象に残った。町並みをより前向きにとらえる提案では、我慢の哲学と都市との交流によるホームステイ教育は癒される空間の中で非常に有効的効果を發揮するだろう。品のいい生活空間が形成されているのだからと。それらをふまえ室戸市吉良川町（高知）伝建地区に深く関わった溝口博彦氏（高知工業高校建築科教諭）から頂いた資料【集落町並みの見方】は、①集落を春夏秋冬にわたって見る。②街道に歴史を読む。③町並みを細部にわたって観察する。④町並みのルールを知る。⑤よいデザインにふれる。⑥泊まり食べる。と六項目にまとめられ一般人や旅人にとっても分かりやすい解説だ。四国各地を巡って見ると文化財指定がなくても価値ある環境を備えた社寺・民家・町屋・近代洋風建築など多くの建築物があるが、それらはいつのまにか消えてゆく土壌があり残念だ。これらは環境デザイン的アクセスによって再生の可能性もあり、しかも地域のランドマークに、さらには



▲宇和町卯之町中町通りのまち並み

サステイナブル環境へと変容出来るかもしれない。幸運にもここ宇和町卯之町中町通りや、大洲市肱南地区には柔らかい「ひとネットワーク」が生き生きとしている。楽しみと誇りが充満しているのか人々の表情は明るかった。今後、四国の環境デザイン的土壤を涵養してゆく為にも、このようなまちづくり的エキスを集積させながらデザインの源流へ近づくプロセスが野性の目覚めになるかもしれない。その後、都市環境デザイン会議幹事会in福岡が11月13~14日の両日エネルギー溢れる博多で開催された。「各ブロックでの会員増強と活性化、休眠会員の問題・ブロック内の距離や地域性によりコミュニケーション不足沈滞化現象の再検討。イベント・フォーラムを主催する側の苦痛。地域によっては都市環境デザインよりも環境デザインが馴染む場合もありうる」等の意見がだされた。これらの解消法は関西ブロックにおいては関西人独特の「のり」でクリアし一番元気なブロックのようだった。

また、10周年記念事業にむけ事業委員会から「都市環境デザインガイドブック」は〈造景〉総合専門誌に各ブロック企画で掲載して完了後、出版する案が有力となってきたと報告された。そのためにも現在進めている「四国風土再発見」をより充実させ、四国から搾りたての情報発信になるよう積極的参加提案を宜しくお願いします。

尚、第2回は新年の1999年1月30日（土）前後に徳島開催の予定です。



▲JUDI幹事会in福岡

おしらせ

## 第2回 四国の風土再発見デザイン紀行 IN上勝 <棚田の景とアフォーダンス>

- 開催日時 : 1999年1月30日（土）13:00～ 徳島県上勝町月ヶ谷温泉前に集合
- 宿泊・交流会場 : 上勝町「月ヶ谷温泉」 ●会議会場 : 上勝町「ふれあいセンター」ホール
- 連絡・申込先 : (有) 集境計画／島博司 電話0886-56-2097、FAX0886-55-0875
- 参加費（予定）: 参加費・資料代500円、懇親会4000円、宿泊費7000円（朝食、税込み）（JUDI会員は合計12000円）
- 予定 1月30日（土）: 冬の棚田見学、基調講演「グランドワークと農村景観」／東京農工大学教授・千賀祐太朗氏、棚田を考える会と勝浦川流域ネットワークの活動紹介、意見交換、温泉休憩、交流会
- 1月31日（日）: 自由見学（各種コースを検討中）